

韓国国立中央博物館

から、90年ぶりに日本へ



小磯良平「日本髪」1935年 油彩 キャンバス 136.3×166.7cm 韓国国立中央博物館

2026.1.10 [土] - 3.22 [日]

〔開館時間〕 午前10時→午後5時（入館は午後4時30分まで）

〔休館日〕 毎週月曜日（1月12日、2月23日は開館）、
1月13日（火）、2月24日（火）

〔入館料〕 一般1,200円（1,000円）／大学生600円（500円）
高校生以下無料〔学生証、生徒手帳などをご提示ください〕

※（ ）内は前売及び20名以上の団体料金

※神戸市在住の65歳以上の方600円（住所と年齢が証明できるものをご提示ください）

※障がい者手帳、またはスマートフォンアプリ「ミライロID」ご提示の方無料

〔主催〕 神戸市立小磯記念美術館、神戸新聞社、毎日新聞社

〔協力〕 韓国国立中央博物館

〔後援〕 駐神戸大韓民国総領事館、サンテレビジョン、ラジオ関西、
NHK神戸放送局、神戸新交通株式会社



神戸市立小磯記念美術館
Kobe City Koiso Memorial Museum of Art

小磯良平展 幻の名作 《日本髪の娘》

《報道関係者お問い合わせ先》

「小磯良平展——幻の名作《日本髪の娘》」広報事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 E-MAIL：koiso@tm-office.co.jp

開催趣旨

日本を代表する洋画家・小磯良平（1903～88）は、人物画とりわけ気品と静謐さに満ちた女性像で多くの方に愛されてきました。小磯の画業をたどる上で欠かすことのできない名作が《日本髪の娘》（韓国国立中央博物館蔵）です。この作品は神戸の山本通にあった戦前の小磯のアトリエで描かれ、1935年の「第一回第二部会展」に出品され、注目を集めました。時をおかず、李王家美術館が購入し、海を渡ったところまではわかっていましたが、その後の消息は判然とせず、幻の作品と考えられていました。

2008年、韓国国立中央博物館が李王家美術館の洋画コレクションを特別展「日本近代西洋画」にて展示したことで、《日本髪の娘》が「再発見」されました。神戸市立小磯記念美術館では《日本髪の娘》の里帰り展示を願ってきたなか、このたび本展が実現するはこびとなりました。

《日本髪の娘》はモダンなデザインの訪問着をまとい、日本髪の鬢^{かつら}をつけて礼装した神戸の令嬢を描いています。当時32歳であった小磯は、大阪の百貨店・高島屋が開催した着物の展示会「百選会」を訪れ、この着物と出会い、高価をいとわず自身で購入して制作にのぞみました。

第二部会展以来、約90年ぶりに日本で展示される《日本髪の娘》と、神戸市立小磯記念美術館の所蔵品を中心に小磯良平の画業を振り返り、新たな視点で小磯芸術を捉え直す機会にしたいと考えています。本展は李王家美術館の洋画コレクションを日本で紹介するという近代洋画研究にとっての画期となるとともに、2008年の報道以来、《日本髪の娘》に関心を寄せてこられた小磯芸術の愛好者の皆様にとって大きな喜びとなることでしょう。

第1章 小磯良平の画業

小磯良平の描く婦人像は「清らかで気品漂う」と形容されますが、その85年の生涯を振り返ると、常に古びずモダンであろうとした「アヒルの水かき」とも言える挑戦と研鑽のありようが見えてきます。神戸のハイカラ文化を体現するセンスと卓抜なデッサン力に裏うちされた、暗い影を感じさせない純度の高い諸作は、常に高雅さをめざした努力によるものなのです。小磯良平は大戦でアトリエと多くの作品を失いましたが、戦後も次々に新しい表現を模索することで、具象絵画の雄であり続けました。この章は、小磯の専門館ならではの切り口でその画業を紹介します。



小磯良平《森》

1965-74年 神戸市立小磯記念美術館蔵



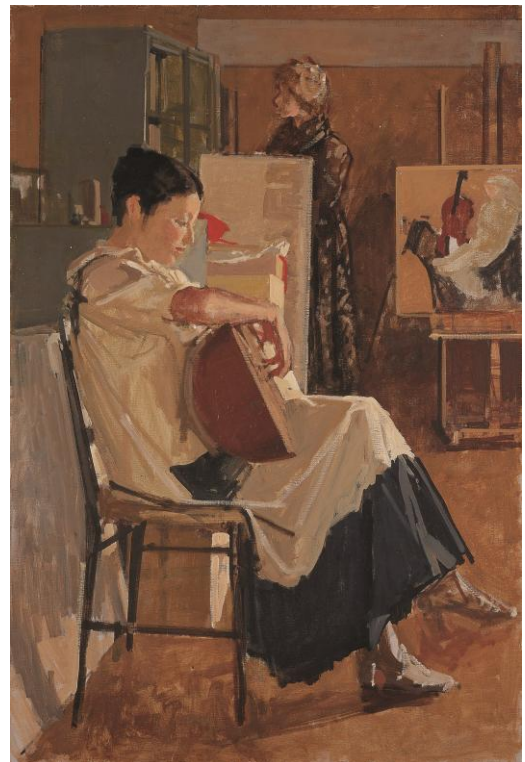
小磯良平《青衣の女》

1929年 神戸市立小磯記念美術館蔵



小磯良平《踊り子》

1940年頃 神戸市立小磯記念美術館蔵



小磯良平《リュートを弾く婦人》

1975年 神戸市立小磯記念美術館蔵

第2章 小磯良平の和装婦人像

小磯良平が描いた和装婦人像は割合としては多くはありません。和装婦人像には《日本髪の娘》を筆頭に、モデルと着物、ポーズの選択から細部の小物にいたるまで小磯の美意識が強くあらわれています。小磯はモデルの容貌、姿態だけでなく、コスチュームとしての着物からその女性の年齢、気性、趣味さえも表現しようと試みたのです。

戦後、小磯は1958年から60年代にかけて舞妓を京都に通って描きました。さらに川端康成作『古都』の新聞挿絵を担当したことから、和装の労働着をまとった大原女、白川女も制作しました。



小磯良平《着物婦人像》
1966年 個人蔵



小磯良平《舞妓》
1961年 武田薬品工業株式会社蔵



小磯良平《大原女》
制作年不詳 神戸市立小磯記念美術館蔵

第3章 《日本髪の娘》と第二部会

波乱の少ない小磯良平の画業のなかで大きな画期と言えるのは、1935年におこった「帝展改組」に反対して帝展無鑑査の有志たちが結成した在野の「第二部会」に参加したことです。心静かに制作をしたい、芸術家の創造の自由を希求するこの集まりは、翌年の小磯をふくむ「新制作派協会」の結成につながっていきます。《日本髪の娘》は、この第二部会に出品された節目となる作品です。

本章では第二部会展以来、およそ90年の時を経て《日本髪の娘》を日本で展観します。また、同じく第二部会展に出品された《踊り子》（武田薬品工業株式会社蔵）が《日本髪の娘》と約90年ぶりに再会を果たします。



小磯良平《日本髪の娘》
1935年 韓国国立中央博物館蔵



小磯良平《洋和服の二人》
1933-34年頃 神戸市立小磯記念美術館蔵



小磯良平《着物の女》
1936年 神戸市立小磯記念美術館蔵



小磯良平《踊り子》
1935年 武田薬品工業株式会社蔵



小磯良平《和服の婦人像》
1935年 姫路市立美術館蔵



千総《流線美式天象》（復刻）
2014年 高島屋史料館蔵

《日本髪の娘》について

斬新なデザインの着物をまとい桃割れの鬘^{かつら}をつけた礼装の娘が、お太鼓を気づかうような姿勢で椅子に腰かけている。娘は左てのひらに右指を立て、なにか物思いにふけっているように見える。この着物は昭和10年（1935）の大阪・高島屋「第五十三回 秋の百選会」に出品された「流線美式天象美光縮緬訪問^{りゅうせんびしきてんしょう ちりめん}着」と名づけられた逸品で、展示会に小磯自身が出向いて高価をいとわず購入した。黒地に吹き流れるように上から下へ青、赤、緑、オレンジ、菊唐草文を施した白の帯が広がっていく抽象性の高いデザインで、画面に清冽な印象を生み出し、娘の内面のセンスの証ともなっている。本作は神戸港を見下ろす山本通にあった戦前の小磯のアトリエで描かれた。

モデルは上田種子^{たねこ}という小磯に絵を習いに来ていた神戸の令嬢で、知的なモダンガールとして小磯作品にしばしば和装で登場する。本作は1935年、在野の「第一回第二部会展」に賛助出品された1点で、官展の美意識に新風を吹かせようとする意気込みが小磯にあったものと推測される。「第二部会展」から時をおかず、李王家美術館のコレクションとなって海を渡った。発表当初から評価が高く、戦前の小磯良平の代表作と考えられていたが、所在の詳細が判然とせず「幻の作品」となっていた。日本では、およそ90年ぶりの展示となる。



小磯良平《日本髪の娘》
油彩・キャンバス 昭和10年（1935）
韓国国立中央博物館蔵

講演会情報

◆事前申込イベント◆

※申込開始：11月7日（金）14:00～

※申込多数の場合は抽選となります。

※申込方法は小磯記念美術館HPをご確認ください。

●記念講演会

・「《日本髪の娘》をめぐって一和装表現の系譜」

講師：岡泰正（神戸市立小磯記念美術館館長）

日時：2026年1月24日（土）14:00～15:30

定員：60名

申込締切：2026年1月8日（木）

・「《日本髪の娘》の頃—日本の洋画と小磯良平—」

講師：西田桐子氏（兵庫県立美術館課長）

日時：2026年2月22日（日）14:00～15:30

定員：60名

申込締切：2026年2月5日（木）

●びじゅつかん大作戦「ミニフレームをつくろう」

日時：2026年2月14日（土）14:00～16:00

定員：20名

対象年齢：4歳～中学3年生

申込締切：2026年1月29日（木）

◆申込不要のイベント◆

※当日先着順

●ミュージアムレクチャー

講師：廣田生馬（神戸市立博物館学芸課長）

日時：2026年2月28日（土）14:00～15:00

●ギャラリートーク

講師：高橋佳苗（神戸市立博物館学芸員）

日時：2026年3月7日（土）14:00～14:30

●「日本髪の娘」展をつたえる—デザイナーX学芸員

対談：時岡佑太氏（株式会社ラシサ代表）× 石沢俊（神戸市立小磯記念美術館学芸担当係長）

日時：2026年1月31日（土）14:00～14:45

定員：60名

●学芸員による展示解説会

日にち：2026年1月11日（日）、18日（日）、25日（日）、2月8日（日）、11日（水・祝）、23日（月・祝）、3月1日（日）、8日（日）、20日（金・祝）

時間：14:00～14:30

●ミュージアムコンサート

演奏：六甲アイランド高等学校弘楽部

日時：2026年3月14日（土）14:00～14:45

会場：1階ロビー

●赤ちゃん家族の日

就学前のお子様を連れた大人2名まで、団体料金（1,000円）でご入館いただけます。

日にち：2026年1月15日（木）、2月19日（木）、3月19日（木）

・関連イベント「赤ちゃん家族でトーク いっしょにあそぼう」

時間：13:00～13:30

定員：親子含めて 20名

●アトリエ解説

解説：当館インフォメーションスタッフ

日時：平日14:00～14:15（約15分）

会場：中庭アトリエ内

開催概要

会 期：2026年1月10日（土）～3月22日（日）[62日間]

会 場：神戸市立小磯記念美術館（兵庫県神戸市東灘区向洋町中5-7）

開館時間：10:00～17:00（入館は閉館の30分前まで）

休 館 日：毎週月曜日（1月12日、2月23日は開館）、1月13日（火）、2月24日（火）

主 催：神戸市立小磯記念美術館、神戸新聞社、毎日新聞社

協 力：韓国国立中央博物館

後 援：駐神戸大韓民国総領事館、サンテレビジョン、ラジオ関西、NHK神戸放送局、神戸新交通株式会社

入 館 料：一般 1,200円（前売・団体 1,000円）、大学生 600円（前売・団体 500円）

※高校生以下：無料（証明書の提示が必要）

※団体は20名以上。

※神戸市在住の65歳以上の方：600円（証明書の提示が必要）

※障がい者手帳、またはスマートフォンアプリ「ミライロID」等ご提示の方：無料

美術館公式ホームページ：

<https://www.city.kobe.lg.jp/kanko/bunka/bunkashisetsu/koisogallery/index.html>

出品作品数：約100点 ※巡回先（福岡市美術館）と一部出品作品が異なります。

【巡回】福岡市美術館（福岡市中央区大濠公園1-6）

2026年4月18日（土）～6月21日（日）[56日間]



前売券情報

一般：1,000円

大学生：500円

ペアチケット：1,900円（一般2枚）

※紙チケットのみ

販売期間：11月7日（金）～2026年1月9日（金）

販売場所：・チケットぴあ（セブンイレブン）<https://w.pia.jp/t/koisoryohei-ex/>

Pコード：687-351

・ローソンチケット（ローソン、ミニストップ）<https://l-tike.com/koisoryoheiten/>

Lコード：52035

・CNプレイガイド（ファミリーマート）<https://www.cnplayguide.com/nihongami-no-musume/>
0570-08-9999（オペレーター対応 10:00～18:00）

・イープラス <https://eplus.jp/koisoryohei/>

・セブンチケット（セブンイレブン）<https://7ticket.jp/s/113014>

セブンコード：113-014

《 報道関係者お問い合わせ先 》

「小磯良平展——幻の名作《日本髪の娘》」広報事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場）090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 E-MAIL：koiso@tm-office.co.jp